

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	◦主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ◦毎時間の授業で、本時のねらいと流れを提示→個人による自己解決→ペア・グループ学習→発表による深い学び→まとめと振り返りの実施 ◦生徒一人ひとりの基礎・基本の定着及び学力向上 ◦学習意欲の向上と学習習慣の確立 ◦学び合活動を通して自己有用感を高める授業展開の工夫 ◦新宿区版 GIGA スクール構想を基に、生徒一人ひとりに合った学び方を見つける ICT 機器等の思考ツールの活用	中間評価		最終評価	
環境作り		◦授業規律の徹底と定着、発展的な指導技術の習得、協働学習の充実 ◦授業中の個別指導、反復学習や少人数・習熟度別指導、放課後学習教室によるきめ細やかな指導の充実 ◦生徒の意欲を高める評価や自学自習の意欲を促す課題、取り組みやすい課題の提示 ◦ICT 機器環境の充実				

■ 教科の取組内容

教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
国語	調 令和３年度新宿区学力定着度調査結果 (平均との比較) 現２年 区 知：+4.7 思：+3.0 主：+1.9 全国 知：+4.1 思：+5.3 主：+0.4 現３年 区 知：+4.0 思：+4.4 主：+2.9 全国 知：+5.1 思：+5.8 主：-1.2 上記結果より、現２学年は、どの観点においても区、全国平均値を上回る結果となったが、主体的に学習に取り組む態度に課題がある。現３学年も主体的に学習に取り組む態度が全国より 1.2 ポイント下回る結果となった。単元の導入や発展教材を工夫することで高めていきたい。	① どの学年も基礎学力を重要視し、定着・維持に努める必要がある。 ② どの学年も「関心、意欲」をさらに高めるために単元への導入や発展教材などを工夫する必要がある。 ③ どの学年も思考、判断、表現力をさらに高めていくことが課題である。	① 漢字練習への取り組みやデジタルドリルの使用を授業内・家庭学習で継続して行うことで、基礎学力を定着・維持させる。 ② I C T機器の活用による導入の工夫を行うとともに、めりはりのある授業展開を行う。さらに発展教材を使い、より深まりのある学習へと導く。 ③ 思考力、判断力、表現力を養うために、自分自身の意見を構築し、交わし合う活動を各単元で行う。例えば、意見発表や話し合い、作文などで表現する授業を行う。		
社会	調 令和３年度新宿区学力定着度調査結果 (平均との比較) 現２年 区 知：+2.1 思：+2.3 主：+2.1 全国 知：-0.4 思：+5.1 主：+6.3 現３年 区 知：+6.8 思：+9.1 主：+6.8 全国 知：+8.2 思：+13.1 主：+11.9 上記の結果より現２・３年ともにおおむね区、全国平均を上回っている。各観点を比較すると現２学年は知識・技能が区平均を上回っているものの、全国平均をわずかながら下回っている。	① 基礎的な知識や技能の定着による基礎学力の向上を図ることが課題である。 ② 授業により得た知識・技能を基にした思考力・判断力・表現力をさらに育成することが課題である。 ③ 生徒が常に意欲的に取り組むことのできる目標設定や授業展開、発問、資料等の教材提示の工夫が必要である。	① 授業ごとに本時の目標に対する振り返りを行い、改めて本時で何を学習したか、理解度はどれくらいか把握させる。また、単元ごとなどで小テストを行うことや、デジタルドリルを活用し。基礎的な知識、技能や学習習慣の定着を目指す。 ② 生徒間での学び合い（グループワーク・ペアワークなど）により生徒同士が主体的に、対話を通して、課題を迫及する活動を実践する。また ICT 機器を利用し、生徒一人一人が学んだことをまとめ発表する機会を通し、表現力の育成を行う。 ③ 生徒が当事者意識をもって授業に取り組むことができるよう地域や生徒の実態に即した教材選定、目標・発問設定を行う。		
数学	調 令和３年度区学力調査結果（平均との比較） 現２年 区 知：+2.6 思：+4.0 主：+2.7 全国 知：+7.0 思：+10.2 主：+8.8. 現３年 区 知：+1.6 思：+2.1 主：+1.2 全国 知：+10.1 思：+12.8 主：+11.8 上記結果より、現２学年、現３学年ともに全ての観点において、区、全国の平均値を上回る結果であったため、良好な結果であると考えられる。しかし、領域別の視点においては、現２学年は図形で 0.3 ポイント、現３学年は数と式で 0.5 ポイント、区の平均値を下回っている。	① どの学年も基礎学力の定着に取り組む、基礎学力の底上げを図ることが課題である。 ② 授業で習得した知識・技能をもとに思考力・判断力・表現力の深化を図ることが課題である。	① 授業ごとにねらいを明確にし、生徒に何を学習したか、理解度はどれくらいかを把握させる。また、小テストや復習テストなどを実施して、基礎的な知識・技能の定着を目指す。 ② 教科書の基本の問題や問題集、デジタルドリルを活用し、家庭学習の習慣化につなげていく。解法の定着を徹底し、基礎学力の向上を図る。		

理科	調 令和３年度新宿区学力定着結果：平均点との比較 現２年 区 知：+1.0 思：+0.6 主：-2.7 全国 知：-4.0 思：+0.3 主：-2.5 現３年 区 知：+5.8 思：+0.5 主：+2.1 全国 知：+4.0 思：+5.2 主：+6.3 第２学年については、知識・技能と思考・判断・表現は区平均点をかろうじて上回ったが主体的に学習に取り組む態度は、区平均全国平均ともに下回った。また、知識・技能は全国平均を下回った。第３学年については全ての項目で、区、全国平均とともに上回っている。第３学年は、概ね良好である。しかし、第２学年は知識・技能や主体的に学習に取り組む態度に関しては更なる向上が期待される。	① ２学年は区、全国の平均値を下回っているので主体的に学習に取り組む態度を向上させる。 ② ２学年は全国の平均値を下回っているので知識の定着や実験観察の能力を向上させる。 ③ 学力の向上（第２学年）や、良好な現在の学力を維持するため（第３学年）、思考力・判断力・表現力を向上させる。	① デジタルドリルや、問題集を活用しながら自らの学習状況を把握し主体的に学習に取り組む態度を養う。 ② 基礎知識の定着を図るために、デジタルドリルや、問題集を使った家庭での反復練習を進める。実験内容を充実させ、技能の向上を図る。 ③ 思考力・判断力・表現力を向上させるために、グループ活動による学び合いの場や、実験データのまとめとその分析をする実習を充実させる。	
英語	調 令和３年度区学力調査結果（平均との比較） 現２年 区 知：+0.4 思：+1.5 主：+1.3 全国 知：+11.7 思：+11.2 主：+9.9. 現３年 区 知：+0.4 思：+3.2 主：+3.8 全国 知：+10.0 思：+16.3 主：+15.5 第２、３学年ともに全ての観点において、区、全国の平均値を上回る結果であった。第３学年は、「思考・判断・表現」の観点の方がさらに高かった。授業やテストで作文を増やしたことが効果的であったと思われる。第２、３学年ともに「知識・技能」の観点では、区・全国の平均値と大きく差はなかったことから、知識・技能の向上を図る必要がある。また、自校の正答率分布を見ると、第３学年はＡ層が５０％だが、Ｃ・Ｄ層も合わせて４０％おり、これらの生徒の知識向上が大きな課題である。	① 説明文、会話文などまとまりのある文章内容を読み取る力を向上させる。 ② 言語材料、Key Sentence、新出語句を定着させる。 ③ 既習事項を活用し、目的に応じた英文を書く力を向上させる。	① 継続的に帯活動でまとまりのある英文を読む課題に取り组ませ、速読に慣れさせる。また、单元ごとに長文を課題とし、長い英文の内容を読み取る力の定着を図る。 ② ワークブックやデジタルドリルを活用し、基礎基本の定着につなげる。既習事項を帯活動で取り上げ、small talk や chat などで復習となるよう継続的に取り組む。Ｃ・Ｄ層の生徒には、学習支援員と協力し、授業時間内に適宜個別指導を心がける。 ③ 单元ごとに授業で扱う Writing やスピーチ原稿等の添削を行う。教科書の Let's Write の活動で、新出の言語材料や語彙の活用機会を増やす。	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は２ページ以上となってもよい。